

佳作

人生百年の想い

茨城県 日立市立河原子小学校六年 叶野 舞彩

私には、おおばあばと名付けた曾祖母がいました。おおばあばは私が生まれた時、大きな声で元気に泣く私の姿を見て、とても喜んでいました。私がおおばあばの家に遊びに行くと、よく昔の話をしてくれました。

今年の夏休みは戦後八十年をむかえ、テレビなどで戦争の映像がたくさん流れていましたが、私のおおばあばも戦争を体験した一人だったのです。

広島や長崎に原子爆弾が投下されたことはテレビや授業を通して知っていましたが、私が住んでいるこの日立市でも空しゅうや射撃により家は焼失し、たくさんの人達が犠牲になったそうです。

死んでしまうかもしれないという恐怖心を抱えながら、必死になって逃げ回っていた頃のことを、涙を流しながら話してくれました。

おおばあばに話を聞く前は、戦争は遠い世界の問

題で、私には全く関係のないことだと思っていました。

ですが、このような体験を直接聞いたことで、戦争は決して遠い世界の問題ではないことを知ることになったのです。

おおばあばがもし戦争で亡くなっていたらどうなっていたのだろうと、ふと考えました。つながらる命も途絶え、私はこの世に存在していなかったかもしれせん。

おおばあばが必死になって自分自身の命を守り抜いてくれたおかげで、私はこうして生まれ、家族やお友達と元気に楽しく過ごすことができているのだと感じました。

おおばあばは昨年、百歳で亡くなりました。戦争を体験したおおばあばが残してくれた言葉があります。

「争いごとは絶対にしてはいけない。常に感謝の気持ちを持って生きていきなさい。」

おおばあばは、戦争の恐怖を体験したからこそ、命の尊さ、人間関係の大切さを誰よりも感じ、争いのない世の中になることをずっと願っていたのではないかと思います。

今でも他の国で戦争が起き、たくさんの方の命が

失われています。

戦争のない今の私達の日々の暮らしが当たり前のようになっていますが、この当たり前の暮らしは実は、幸せなことであることを、おおばあばが教えてくれた気がします。

平和な今の暮らしがこれからもずっと続いていくるように、常に感謝の気持ちを持ち、周りの人達と仲良くしながら生活していけたらと思います。

おおばあばが百年という長い年月を生きて教えてくれたたくさんの方の想いを、今度は私が未来につないでいきます。

おおばあば、平和な世界で暮らす私達の姿を、空からずっと見ていてね。